

2022年度 自己点検・評価チェックシート 学部・研究科名：政治経済学部

※学部・研究科ごとに作成してください。

確認事項1 3つのポリシー		
(1) 3つのポリシーを教授会・運営委員会等で確認した	☒ 確認した	2022 年 5 月 会議名：学部運営委員会
	☐ 確認していない	年 月 確認予定
(2) 3つのポリシーは学生や社会に公表されている	☒ 公表されている	☒ 要項 ☒ HP ☐ パンフレット ☐ その他 ()
	☐ 公表されていない	公表予定時期：

確認事項2 学修成果		
(1) 学修成果を設定している	☒ 設定している	⇒(2)、(3)を記入
	☐ 設定していない	年 月 設定予定
(2) 学修成果の内容	☒ 各学部・研究科の DP と関連付けて設定している ☒ 複数の方法で根拠に基づいて測定することが可能である ☒ 知識、スキル、態度・志向性をバランスよく含んでいる ☒ 「学生は、～することができる」といった形式にするなどわかりやすい記述となっている	
(3) 学修成果を明示している	☒ 明示している	☐ 要項 ☒ HP ☐ パンフレット ☐ その他 ()
	☐ 明示していない	年 月 明示予定

◆明示している学修成果（昨年度報告している箇所もご記入ください。ホームページ等のリンクではなく、学修成果をご記入ください。）

学修成果1 (“Philosophy, Politics and Economics (PPE)”の基礎知識)

学生は論理的で批判的な思考 (Philosophy) を通じて政治と経済の両現象に関わる課題を分析し、判断を下すための基礎的な知識を有している。

学修成果2 (学科別の中級基礎知識)

学修成果1 で得た知識の上に、学科別の以下の学修成果を積み上げる。

- ・政治学科 : 学生は政治現象を経済現象との関連で理解し、数理的・経験的分析手法と政治哲学の理念にもとづいて分析できる。
- ・経済学科 : 学生は経済現象を政治現象との関連で理解し、経済理論をもとにデータを分析できる。
- ・国際政治経済学科 : 学生は政治現象と経済現象を合わせて理解し、社会の諸問題を政治学と経済学の両面から分析できる。

学修成果3 (グローバルなコミュニケーション力)

学生は幅広い教養と文化・地域の多様性を踏まえたコミュニケーション力を持ち、世界の様々な課題に取り組む姿勢を有している。

学修成果4 (問題発見・解決力)

学生はデータ分析力を身につけ、新たな問題を言語化またはモデル化し、論理的に解を導くことができる。

学修成果5 (プレゼンテーション力)

学生は導いた解を建設的に提案するプレゼンテーション力および論文作成力を有している。

確認事項3 学修成果の測定方法の設定			
(1) アセスメント・ポリシーを設定している	☒ 設定している	⇒ 確認事項(2)、(3)を記入	
	☐ 設定していない	年 月 設定予定	
(2) アセスメント・ポリシーの内容	☒ 学修成果と測定方法の関連性が明確になっている ☒ 学修成果を複数の方法(可能な限り「直接評価」と「間接評価」の組み合わせ)で測定する ☒ 測定時期を明確にしている ☐ どの水準をもって達成とするか学部・研究科内で合意している		
(3) アセスメント・ポリシーを明示している	☒ 明示している	☐ 要項 ☒ HP ☐ パンフレット ☐ その他 ()	
	☐ 明示していない	年 月 明示予定	
◆ 明示しているアセスメント・ポリシー (別紙での提出も可)			
No.	学修成果	測定時期	測定方法
1	<u>“Philosophy, Politics and Economics (PPE)”の基礎知識</u> 学生は論理的で批判的な思考(Philosophy)を通じて政治と経済の両現象に関わる課題を分析し、判断を下すための基礎的な知識を有している。	1～4 年次 毎年度末	直接評価：入門・必修科目の単位修得率 間接評価：フォーカスグループインタビュー 授業評価アンケート 学生生活・学修行動調査

No.	学修成果	測定時期	測定方法
2	<u>学科別の中級基礎知識</u> 学修成果1で得た知識の上に、学科別の以下の学修成果を積み上げる。 ・政治学科：学生は政治現象を経済現象との関連で理解し、数理的・経験的分析手法と政治哲学の理念にもとづいて分析できる。 ・経済学科：学生は経済現象を政治現象との関連で理解し、経済理論をもとにデータを分析できる。 ・国際政治経済学科：学生は政治現象と経済現象を合わせて理解し、社会の諸問題を政治学と経済学の両面から分析できる。	2～4 年次 毎年度末	直接評価：学科別に対象学科目の中級基礎科目の単位修得率 政治学科：政治学科目 経済学科：経済学科目 国際政治経済学科：政治学科目・経済学科目 間接評価：フォーカスグループインタビュー 授業評価アンケート 学生生活・学修行動調査
3	<u>グローバルなコミュニケーション力</u> 学生は幅広い教養と文化・地域の多様性を踏まえたコミュニケーション力を持ち、世界の様々な課題に取り組む姿勢を有している。	1～4 年次 毎年度末	直接評価：外国語科目の単位修得率 グローバル科目の単位修得率 政治経済学部副専攻「外国語地域副専攻」の修了者数 日本語学位プログラム生の英語開講科目の単位修得率 間接評価：フォーカスグループインタビュー 授業評価アンケート 学生生活・学修行動調査 海外留学率
4	<u>問題発見・解決力</u> 学生はデータ分析力を身につけ、新たな問題を言語化またはモデル化し、論理的に解を導くことができる。	1～4 年次 毎年度末	直接評価：分析手法・方法論科目の単位修得率 間接評価：フォーカスグループインタビュー 授業評価アンケート 学生生活・学修行動調査
5	<u>プレゼンテーション力</u> 学生は導いた解を建設的に提案するプレゼンテーション力および論文作成力を有している。	2～4 年次 毎年度末	直接評価：演習系科目の単位修得率 間接評価：フォーカスグループインタビュー 授業評価アンケート 学生生活・学修行動調査

<3つのポリシー・カリキュラム・入試制度の変更>

※2021年10月以降に変更を決定した項目があれば記載してください。本チェックシートの別項目で記載している場合は不要です。

項目	変更時期	変更内容	変更理由
ディプロマ・ポリシー	2022年5月	学修成果1. PPE 及び 4. 問題発見・解決力に記載の内容に合わせて表現を修正	新たに設定した学修成果に関連付けて分かりやすく公表するため
アドミッション・ポリシー	2022年5月	実態に即した表現に修正	3つのポリシーの点検に際し、修正すべき表現が確認されたため

※確認事項 3-1、3-2、3-3、3-4、3-5、3-6、3-7、3-8、3-9、3-10 は該当なし